

木道整備におけるすべり止め板の活用 「磐梯朝日国立公園 月山八合目木道」 整備事例紹介

株式会社 ラスコジャパン 営業部 土井雄気

一・自然公園の木道

国立公園や国定公園をはじめとする自然公園において、木道は欠かすことのできないインフラである。その最大の目的は、湿原などの貴重な植生や森林の林床を利用者の踏圧から守ることにある。木道を設置することで利用者の動線を限定し、植生破壊や土壌の洗掘を防止することは、自然環境保全の観点から極めて重要な意義をもつ。

こうした木道の床板には、周囲の景観との調和や自然



自然の景観と調和した木道

に馴染む質感、環境負荷の低減といった観点から、一般的に木材が使用されることが多い。国産材を活用した木道は、森林資源の循環利用にも寄与し、自然豊かな景観に溶け込む特有の美しさを提供している。

一一・木道における安全管理の課題

国産木材を使った床板は景観性にも優れ、自然にも馴染みやすいが、その反面で経年劣化によって腐朽が進みやすく、雨天時などで床板が濡れているときは利用者の転倒事故が発生しやすくなる。

従来の転倒事故の対応策として、床板に栈木を付けていたが、劣化が早く、アイゼンを使用するような場所であれば、アイゼンによつ

て栈木が削られ、短期間で破損してしまうなど、管理者にとって維持管理の負担となっている。また、利用側の視点に立つと、栈木の幅に歩幅が制限されてしまい、歩きづらさを感じてしまうというデメリットもある。



経年劣化した木道

二三・すべり止め板の開発背景と特性

こうした課題を解決すべく開発されたのが、ステンレス製のすべり止め板である。開発のきっかけは、日々現場の管理者や利用者とのコミュニケーションを図る中で、「雨天時の滑り」「栈木の損耗」「維持管理の負担」に関する相談が継続的に寄せられていたことにある。そこで、鉄鋼・化学・食品などの幅広い業界で濡れた床や階段などの転倒防止に使用されている株式会社伊藤の「くつ底キャッチャー®」に着目し、これを自然公

園の用途に最適化し、新たに製品化を図った。

長寿命化が期待できる素材のため、雨風や摩耗にも強く、従来の木製の栈木と比較しても長期にわたってノンスリップ効果が衰えないメリットがある。

また、設置方法も簡単でビスや釘で留めるだけで取り付けることができる。木道の点検時や急な対応の際でもスポット的に対応することができ、

利用者側としても、従来型の栈木と比較すると超薄型であり、歩行時の邪魔にならないため、足元を気にせず景色を楽しみながら登山することができるようになる。すべり止め板の表面には適度な突起がある穴加工を施しており、床板が滑りやすい環境下でも、靴底をしつかりとキャッチする仕様となっている。

本製品は木製床板にビスや釘で固定する構造であるため、床板側の経年劣化に伴いビスのゆるみが生じる可能性はある。一方で、すべり止め板本体はステンレス製で耐久性が高く、取り外し後の再設置が可能である。そのため、部材を長期的に再利用でき、施設の長

寿命化の観点でも自然公園整備との親和性が高い。また、金属素材であることから自然景観との調和を懸念する声もあるが、設置後には、「足元をはっきり視認できるため、かえって安心感がある」「注意喚起にもなり、安全意識が高まる」といった好意的な声が多く寄せられている。

四. 月山八合目における導入事例と効果

具体的な事例として、山形県鶴岡市の月山八合目における事例を紹介したい。

場所は駐車場から至近で、シーズンになると登山者や出羽三山の巡礼者、さらにはスニーカーで訪れる観光客まで多様な層が訪れる場所である。そのため、利用者の装備が様々であり、軽装者の転倒事故を予防するために、すべり対策は急務となっていた。また、従来使用していた桟木の供給体制が途絶えたこともあり、新たな対策を検討していた。

ここで特筆すべきは、設置作業を単なる「工事」としてではなく、地域住民や登山者等が参加できる「保全イベント」として実施した

点である。

月山ビジターセンターが主体となっており、呼びかけ、当日はガイドや登山者など約三〇名が参加した。設置場所をチョークでマーキングし、製品を配置し、金槌と釘で固定するというシンプルな工程は、参加者で大変好評であった。

「自分たちの手で山を整備している」という充実感が生まれ、予定していた二〇〇枚のすべり止め板の設置作業は三〇分程度で完了した。参加者からは「もつと作業を続けたい」「これほど簡単に取付けられるとは思わなかった」という声が上がった。

例年、当該箇所では転倒の報告が入っていたが、設置後のシーズンでは転倒報告は確認されなかった。昨年度の効果を踏まえ、今年



設置後

設置中の様子

度も範囲を広げ追加設置が予定されている。

五. おわりに「整備を通じた地域貢献」

現在、本製品は国立公園の実績

では磐梯朝

日のほか、

日光、礼文

島、霧島錦

江湾などで

も利用されて

いる。また、

各自自治

体からの問

い合わせも

増えている。

今後は、

木道の整備

を単なるイ

ンフラ維持

にとどめず、

新たな地域

貢献の形に

昇華させた

いと考えて

いる。昨今、

登山道整備

の現場では

施工業者の



事例② 礼文島木道

事例① 階段部用すべり止め板(日光戦場ヶ原三本松園地)

高齢化と人手不足が深刻な課題となっている。これを解決する鍵は「参加型の整備」にあるのではないだろうか。

本製品の「設置が容易」という特性を生かせば、企業や学校を巻き込んだワークショップとしての実施も可能である。

自然公園の歩行環境を整えることは、利用者の命を守るだけでなく、自然への深い理解と愛着を育む入り口となる。すべり止め板という一つのツールを通じて、持続可能な公園管理の新たなモデルを構築し、次世代へ豊かな自然を引き継ぐ一助となれば幸いである。

土井 雄気●どい ゆうぎ

地域貢献に興味を持ち、株式会社ラスコジャパン入社。現在は妻の故郷である山形県新庄市に移住し、東北エリアを拠点に、客先への設計提案及び営業に従事。

趣味は野球、登山、史跡探索、マラソン。